

博物館における デジタル資料情報の記述法

転写資料記述のための概念モデル

Study on a Description Method for Digital Material Information in Museums: A
Conceptual Model for the Description of Copied Materials

安達文夫

ADACHI Fumio

- ①はじめに
- ②デジタル資料の現状とその記述の課題
- ③転写資料と記述の要件
- ④転写資料記述の概念モデル
- ⑤検証と考察
- ⑥むすび

[論文要旨]

人文系の博物館や研究機関において、デジタル化された画像や映像、音響資料の利用が進み、今後ますます多様化し増大すると考えられる。これを広く利用できるようにするためには、デジタル資料の情報を適切に記述することが重要であり、そのための記述法を確立する必要がある。

デジタル資料には、複製や改変が容易で、そのために制作に幾つかの過程を経ることがあり、形態も多様であるという従来のアナログ形の資料にはない特質を有する。しかし、何らかを写し取っているという点では、アナログ資料と同等である。そして、この二つを管理上区別できない状況も生まれている。そこで、これらを転写資料と捉え、両者を連続的に扱うことのできる記述モデルについて、国立歴史民俗博物館の共同研究の中で検討を進めた。

転写資料の記述の視点として、ファイルや記録媒体であるフィルムから書き起こすのではなく、利用者に見える／聴こえる姿から記述できるものとし、転写資料の制作過程やデジタル資料に特有な複合形態を持つ資料の構成を記述できることを要件とした。

写し取られているものが何かを明示するため原資料の情報を記述すること、転写資料を作成する直接の元となる資料を転写元として明示すること、そして転写資料と記録媒体は切り離すことを基本としている。転写資料自身の情報を主情報、作成情報、表現情報、格納情報に区分することにより、多様な転写資料の情報を見通しよく記述できる。このモデルの特徴は転写元を明示する点にある。これにより、制作過程を同時に記録できる。そして、これが複合形態の転写資料の構成の簡潔な記述になることが、既存のモデルやメタデータにない特長である。

【キーワード】 歴史資料、博物館資料、資料管理、デジタルデータ、複製